

ロマンチック保存装置 #14



紙

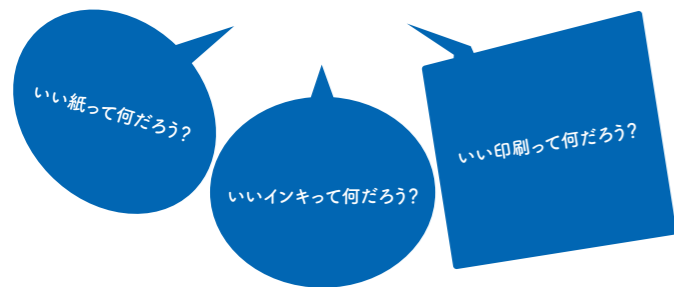
は、

もつと語られ、
知られ、
試され、
始まりたがっています。

立ち止ることを許さない情熱の存在を信じて、
交流を一段と深めていきたい。
今この瞬間、

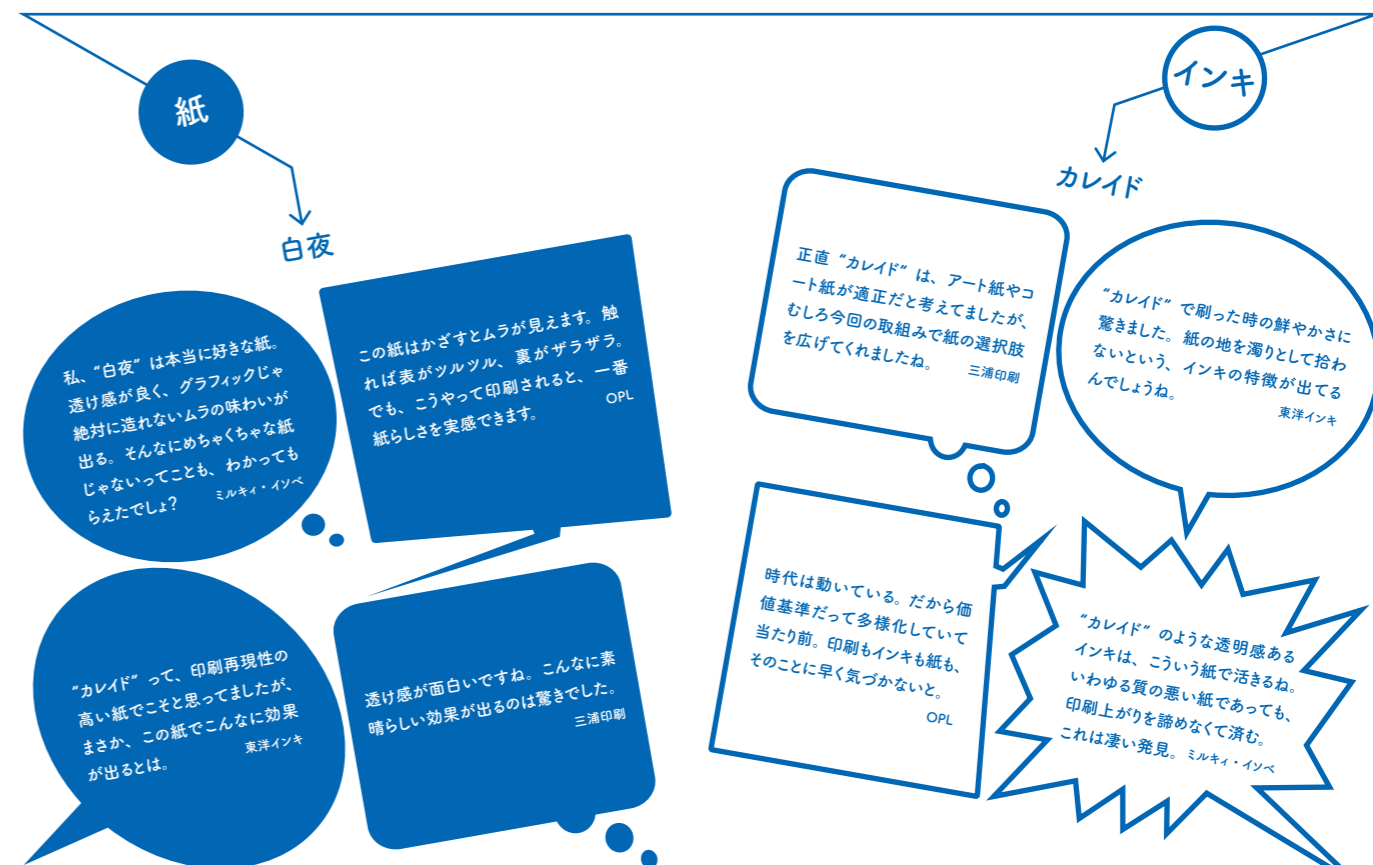
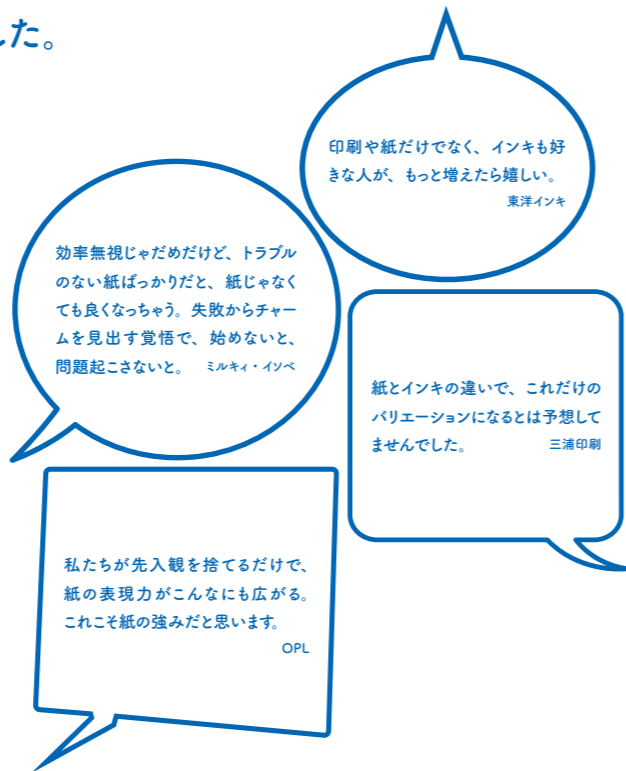
紙にとって最高のことが起こっていると確信したいのです。
安易な結論で静止せず、
常に始まり、
常に葛藤しながら、
依然としてドキドキしていきます。

紙、デザイン、インキ、印刷で集まって、始めました。



そんな私たちの呼びかけにご賛同いただき集まったのは、アートディレクターのミルキィ・イソベさん、東洋インキ製造株式会社さん、三浦印刷株式会社さん。紙をキャンバスにどこまでの表現ができるのか、4者で徹底的に話し合い、徹底的に試してみました。紙媒体の危機が叫ばれる中、言わば紙がないと生きられないエキスパートたちで、思い込みを捨て、着地点を設定せずに、とにかく始めてみたのです。

紙に至るまで、多種多様。インキは、オフセット印刷用のレギュラーインキ“TK NEX-P”と、東洋インキさんが誇る広演色インキ“Kaleido (カレイド)”の2種類を各紙で刷り比べてみました。ミルキィさんの実験的なデザインのもと、この難関に挑んだのは、三浦印刷さん。そして今回の決め事は、ただ1つ。実験結果はありのままに伝えるということ。それを皆さんの前にすべて提示し、そこから次を始めます。手触りのある、物としての魅力に溢れるのが紙です。ぜひ、正面と背後の展示に触れながら、その感触ごと、しっかりと確認してください。



この冊子の用紙にも、白夜を使用しています。

この冊子のインキにも、カレイドを使用しています。

1958

2010

かつて古紙は大きな賭けでした。

1950年代に入り、製紙業界は戦前の生産量を上回るほどに復興を遂げましたが、時を同じくして、長く紙づくりの主役だった木材の価格は急騰。深刻な原料不足が表面化してきました。各社が原料の安定確保という難題を抱え、存亡をかけた岐路に立たされたのです。ここで本州製紙（現、王子製紙）富士工場は、木材パルプ設備を停止して古紙に活路を求めると、大胆な行動へと打って出ました。当時、古紙は板紙の中層などで一部使われてはいましたが、メインの原料として、しかも繊細な品質を求められる印刷用紙にまで使うことは、従来の固定概念に捉われない斬新な発想でした。いち早く古紙に着目し、古紙からインキを取り除いて、常識では考えられなかった白さにまで到達する研究を日夜積み重ねてきた努力が、ついに実を結んだのは、

1958年の2月。日本初となる“フローテーター”を組み入れた新聞古紙パルプ製造ラインが稼動したのです。フローテーターとは泡の力でインキを浮かせて取り除く設備で、実は半世紀経った現在でも、この基本原理は変わらずに継承されています。原料の危機、突き詰めれば製紙業の危機を、何が何でも乗り越えようとした先人たちの強い意志と覚悟が、今日の礎を築いたと言っても決して過言ではないでしょう。



再生紙づくりを継承するということ。

古紙を取り巻く環境に今、大きな変化が起きています。紙自体の販売が落ち込む中、特に大きく落ち込んでいるのが再生紙です。古紙をメジャーに押し上げた“環境”の意味が多様化し、古紙への価値観の変化を感じずにはられません。一方で古紙利用のバイオニア、王子製紙富士工場では、今でも古紙だけで紙の生産を行っているため、この事態は深刻です。いかに古紙の価値や魅力をお伝えすれば良いのか、以前のように環境配慮で押すべきか、あるいは何か新しい提示方法がないものか、悩んで、悩んで、悩んでいるのが正直なところ。ただ、これだけは言えます。先人が切り拓き、受け継がれてきた技術は本物。捨てればゴミになるような物が、もう1度紙になる。本展示のように、黒く異物が多かったものから、インキが取られ、白くなっていく様は

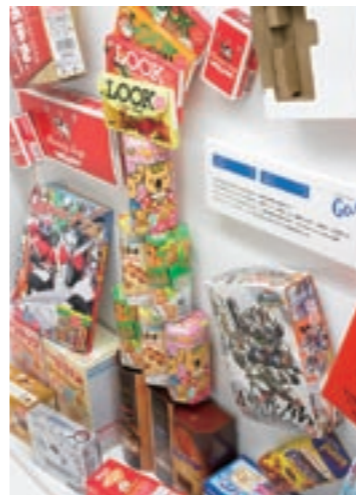
圧巻ではないですか？ しかも右ページで取り上げた用紙のように、1枚の紙として見れば、古紙ゆえに到達できるものばかり。日々古紙に携わり、改めて並べてみると、古紙って凄くカッコいい、と素直に思えるんです。私たちは、何としてもこの偉大な技術を継承していかなくてはなりません。そのためには価値の押し付けでなく、古紙利用のありのままをお伝えすることが案外1つの答えかもしれない、と思っています。



古紙を使用した、バラエティ豊かな紙たち。

OKボール

古紙を最も多く使用して造られるのが、板紙と呼ばれる厚紙です。中でもこのOKボールは本展示のように、洗剤の箱やお菓子の箱、多彩なパッケージとして活躍。知らないうちに、さりげなく、しかしながら最も皆さんに親しまれている紙製品なのです。



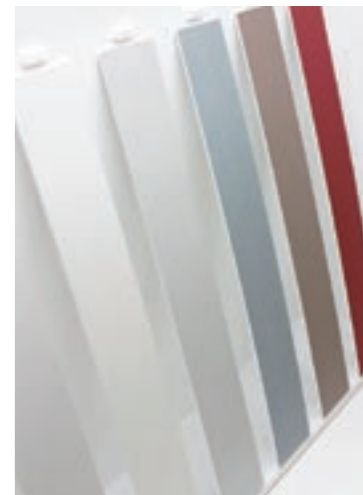
OKマットコートグリーン100 OKコートNグリーン100

1990年代に誕生した、グリーン100シリーズ（古紙100%）の中で、印刷再現性を追求した両紙。4色印刷で十分な表現が可能です。マット仕上げと、グロス仕上げでは、写真の印象も大きく変わります。この差をしっかりとご記憶ください。



Mag

古紙利用の最大の課題は、取り切れず残ってしまうインキやチリ。そんな弱点を、発想の転換で柄として活かしたのが、このMagなのです。古紙ならではの、くすんだ色味が異彩を放つ6色から、さらなる色展開を模索しています。



300種類の中から紙を検索して、無料サンプルをお持ち帰りいただけます。

OJI PAPER LIBRARY

〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 (王子製紙本社1階) papertec@ojipaper.co.jp

www.ojigroup.net



この冊子は、用紙「白夜 四六判 Y目 38.5kg」、インキ「カレイド(東洋インキ製造株式会社)」を使用しています。